

入札監理小委員会における審議結果報告 JICA 国際協力エッセイコンテスト運営管理業務 (2022-2025 年度)

独立行政法人国際協力機構の JICA 国際協力エッセイコンテスト運営管理業務について、当該民間競争入札実施要項（案）を入札監理小委員会において審議したので、その結果を以下のとおり報告する。

1. 事業の概要

(1) 事業の概要

○事業概要

日本全国及び海外の中学生、高校生を対象に、開発課題や国際協力をテーマにしたエッセイを募集し、第一次審査から最終審査までの計 3 回の審査を経て、個人及び学校を表彰するもの。

個人賞においては、「最優秀賞（独立行政法人国際協力機構理事長賞、外務大臣賞、文部科学大臣賞）」「優秀賞」「審査員特別賞」「国際協力特別賞」「国内機関長賞」「佳作」を基本に表彰し、学校向け表彰においては、「学校賞」「特別学校賞」の 2 賞を基本に提供する。

個人賞の上位受賞者を対象に表彰式を実施し、個人賞の「最優秀賞」「優秀賞」受賞者には、開発途上国への海外研修を提供する。

○事業期間

令和 4 年 4 月から令和 8 年 3 月までの 4 年間（第 1 期目）

○事業の目的

- ① 日本全国及び海外在住の中学生、高校生に対して、エッセイを書くという行為を通じて、国際協力について考えてもらうきっかけを提供し、開発課題や国際協力への関心を高める。
- ② 本事業の実施を通じ、中学校、高校等の教員に開発課題や国際協力への関心を喚起することにより、開発教育の促進を図る。
- ③ 本事業の広報活動を通じ、開発教育の意義を広く市民にアピールする。

(2) 選定の経緯

1 者応札が継続しており、競争性に課題が認められることから、公共サービス改革基本方針（令和 2 年 7 月 7 日閣議決定）において選定され、今回が 1 期目となる。

2. 市場化テストの実施に際して行った取組について

- ・実施期間を 3 年→4 年に延長。（【資料 1 - 2】 21/135 頁、【資料 1 - 2】）
- ・業務説明会の開催（【資料 1 - 2】 24/135 頁）
- ・入札スケジュールを前倒し、引継ぎ期間を 3 週間程度確保。（【資料 1 -

2】24/135頁)

- ・過年度の実施状況を開示、閲覧資料として審査要領、応募者アンケート結果を追加した。(【資料1-2】46/135頁)

3. 1回目の実施要項(案)審議結果を踏まえた対応について

【論点1】

第1次・第2次審査の外部組織の協力体制やその構築方法について、発注者が支援できることを含め、明文化すること。

【対応1】

- ① 第1次審査、第2次審査の項目に「発注者は、受注者に実績を有す外部組織を紹介し、協力が得られるように支援する。」と追記、外部組織が担う役割の内容詳細、受注者が行う外部組織との応募作品の送受についての追記を行った。(【資料1-2】8、9、10、11/135頁)
- ② 別紙1従来の実施状況に関する情報の開示に外部機関の協力実績(第1次審査・第2次審査)を追記した。(【資料1-2】46/135頁)
- ③ 評価表の要員計画についての項目に、第1次・2次審査の協力体制の構築は含めないことを明記した。(【資料1-2】39/135頁)
- ④ 第一次・第2次審査に係る外部組織の協力の実績(2020年度)(応募作品数に対する審査員の人数)を別紙1従来の実施状況に関する情報の開示に記載した。
(【資料1-2】46/135頁)

【論点2】

受賞者の海外研修、研修プログラムの作成について、詳細な内容の記載と、発注者と受注者の業務の切り分けについて明確にすること。

【対応2】

- ① 研修プログラムの作成について、発注者と受注者の業務の切り分けの内容を追記した。(【資料1-2】17/135頁)
- ② 海外研修派遣前研修、海外研修の実施に係る内容に、受注者の行う業務の詳細を追記した。(【資料1-2】16、18/135頁)
- ③ 事前研修から海外研修までの概要と、発注者・受注者・旅行会社の役割分担が分かる表を別紙8に追加した。(【資料1-2】123/135頁)
- ④ 「海外研修の企画かつ適切な実施」を評価基準の項目として評価表に追記した。(【資料1-2】38/135頁)

【論点3】

評価表について、何に留意して提案したらよいか、評価基準が明瞭になるよう全体的に見直しが必要である。

【対応3】

- ① 提案の際に留意すべき具体的な内容を追記した。
- ② 評価表全体の見直しを行い、業務従事者についての経験の加点項目から「国際協力に関する類似経験」を削除した。

- ③ 配点について、経験や能力等の配点を下げ、業務の実施方針等の提案内容の配点を上げる等の見直しを行った。
(【資料1-2】38、39/135頁)

【論点4】

紙での応募等のアナログなやり方が参入障壁にならないよう、DX化の提案を歓迎するといった内容を追記すること。

【対応4】

- ① 募集・広報【概要】にウェブ応募の導入の項目を新たに設定し、その他関連箇所にも追記を行った。(【資料1-2】5、7/135頁)
- ② 評価表(1)業務実施の基本方針(留意点)・方法に、加点項目として、ウェブ応募導入を含んだ提案を評価する旨を追記(【資料1-2】38/135頁)

【論点5】

業務従事者の経歴、及び経験・能力について、学歴や外国語の能力を経歴書に記載させることは必要か。

【対応5】

学歴(学位)・語学に関する記載を削除。(【資料1-2】37/135頁、75/135頁)

【論点6】

サービスの質の設定について、曖昧であるため、もう少し具体的になるよう見直しをすること。

【対応6】

サービスの質の設定5項目の内容について、全面的に見直しをした。
(【資料1-2】19、20/135頁)

【論点7】

その他、競争性改善に向け、全体的に見直すところがないか検討すること。

【対応7】

- ① 別紙1従来の実施状況に関する情報の開示に再委託の実施状況を追記。(【資料1-2】46/135頁)
- ② 現事業者の作業工程表(2019年度)を別紙5にて開示した。(【資料1-2】79/135頁)
- ③ 入札時に閲覧資料として供する資料について、実施要項の該当箇所にも括弧書きで追記した。(【資料1-2】実施要項案8、9、10、11、12、15、17、19/135頁)

【その他】

再審議となったことにより、入札スケジュールが2週間程度後ろ倒しになったため、引継ぎ期間を3週間程度確保できるよう、事業開始日を次期事業者と協議できる旨を追記した。(【資料1-2】24/135頁)

4. 2回目小委（再審議）の実施要項（案）の審議結果について

【論点1】

応募作品の受付業務（応募受付から第2次審査書類の発送まで）における、受注者・協力外部機関・（再委託の場合）再委託先の業務の切り分けを明確、具体的にわかるように記載すること。

【対応1】

応募作品の受付業務（応募受付から第2次審査書類の発送まで）におけるフロー（2020年度実績）別紙10を添付し、業務の切り分けと受注者・外部の協力機関・（再委託した場合）再委託先の役割を明確にした。
また、作品の郵送・送達の確認方法、保管・廃棄方法についても明記した。
（【資料1-2】128/135頁）

【論点2】

海外研修が延期になった際、代替として実施したオンライン研修について、その実績（内容）を追記すること。

【対応2】

2021年度の海外研修の代替実績を追記した。（【資料1-2】16/131頁）

4. パブリックコメントの対応について

令和3年10月8日から10月22日まで実施したパブリックコメントにおいて、2者から12件の意見が寄せられ、うち1件の意見を踏まえ、実施要項案の修正をした。（応募書類の性別項目「男」「女」に加え「無回答」の追加）
（【資料1-2】6、7、8/135頁）

他11件の意見については、実施要項案に修正を要するものはなかった。

5. その他

- ・ 競争性を高める観点から、入札金額の積算費目のうち、競争の対象とならない定額で見積もる直接経費の費目を減じ、競争の対象となる直接経費の費目に組み入れた。（【資料1-2】34/135頁）
また、経費積算費目詳細について、別紙12入札金額内訳書を添付した。
（【資料1-2】130、131、132、133、134、135/135頁）
- ・ 契約期間は「2022年3月上旬から2026年3月下旬まで」であるが、実施期間を「2022年4月から2026年3月まで」と記載していたため、修正した。（【資料1-2】21/135頁）